

栃木県に一千万人の外国人観光客を呼び込むために

開倫塾

塾長 林明夫

栃木県が年間一千万人の外国人観光客を呼び込み国際観光県になるための条件とは何かを考える。数少ない統一ある刺激は数多い散漫な刺激に優る。全県民が知恵を振り絞って、全県が一丸となって統一イメージづくりをすれば必ず栃木県に年間一千万人の外国人観光客は来る。

最も大切なことは何か。それは、個人旅行主体の外国人観光客が英語、中国語それにハングル語表記のホームページで栃木県内の行きたい場所を捜せることだ。日本語の他に先の3か国語のホームページの整備は、橋や道路の整備以上に税金を投入すべきだ。

予約や問い合わせも日本語の他に先の3か国語でインターネットやeメール、電話やファックスでスムーズにできなければ国際観光地にはなれない。

そのために英語、中国語それにハングル語が自由に使いこなせる県内在住の外国人留学生と卒業生が大活躍できるしくみを県や市町は整えるべきだ。

ホテルや旅館、観光施設で働く人々、バスやタクシーの運転手への外国語教育は欠かせない。同時にそれらの仕事の担い手として外国人留学生や卒業生が活躍できるしくみを県や市町は整えるべきだ。

駅や自動車での町の入り口には、インフォメーションの国際表示「i」マークのついた案内所と両替所が不可欠。ドルやユーロ、元やウォンなど代表的な外国通貨やカードの使えないホテルや旅館、お店、観光施設をできるだけ少なくすることも大事。

美しい景観づくりには、街の屋根の色や建物の高さ、建築様式、看板の大きさや色、街路灯の形や色などの統一が不可欠だ。電線などの地中埋設、CATVを活用してのTVアンテナなどの除去などは、世界中の国際観光地では美しい景観づくりに向けての当然の取り組みと言える。

外国人観光客は同じところに何泊もするのが普通だ。長期滞在をしてもらおうコツは、日本のホテルや旅館にはなじみにくいかも知れないが、一人一泊いくらというのではなく、一部屋いくらと部屋単位で宿泊料を頂くことだ。

最後に一言。足尾をはじめ栃木県には使用されていない家屋が山ほどある。数か月単位の長期滞在用の施設として町単位でリフォームして外国人観光客に開放することも提言したい。